

今後の都の取組の方向性について

1 高齢者の適切な救急受診について

○高齢者の急変・病状変化時における医療・介護関係者の対応力の向上の支援について

- ・ 後方支援病床の確保について
- ・ 介護関係者の対応力の向上及び医療関係者との連携について

2 円滑な情報共有について

○救急医療を受ける際の、救急医療機関の受入れや救急隊の搬送の際に必要な患者情報の円滑な共有方法について

- ・ 救急医療機関や救急隊との連携の際に、必要となる情報及びその連携方法について

3 その他、都が取り組むべき課題はどのようなことが考えられるか

今後の都の取組の方向性について

1 ICT を活用した情報共有・多職種連携について

【現状】

- システム導入状況：49 地区医師会
- システム導入割合：カナミック 15 地区、MCS26 地区、他システム 9 地区、未実施 8 地区 ※重複あり
- 利用患者数：1 人～880 人

○ICT ネットワークの運用状況について

- ・活用方法について（情報の共有、意見交換）
- ・共有している情報の内容について
- ・利用患者数について

○広域連携について

- ・各地区医師会毎に導入システムが異なることについて（現状、課題、対応方法）

○病院と地域との ICT ネットワーク連携について

- ・連携時に必要とする情報は何か（病院側、地域側、救急時）
- ・連携方法について

○救急医療を受ける際の、救急医療機関の受入れや救急隊の搬送の際に

必要な患者情報の円滑な共有方法について（再掲）

- ・救急医療機関や救急隊との連携の際に、必要となる情報及びその連携方法について（再掲）

2 その他、都が取り組むべき課題はどのようなことが考えられるか